

eXtreme Meetingと取引ネットワーク生態系

鈴木健

世の会議の問題

- 目的不明瞭
 - そもそも会議を開催する目的を、参加者が共有しないまま開催されるため、無駄が多い。
- 議論の迷走
 - 議論の流れが可視化されていないので、いったい今何を目指して議論されているのか、誰も分からなくなってしまう、議論が迷走する。
- 長時間に及び疲れる会議
 - 長時間の会議を続け集中力を低下させてしまう
- あいまいな結論によるトラブル
 - 結論があいまいなので、あとで実作業をするときに「言った、言わない」、「決まった、決まっていない」、というトラブルが起きる。
- 実行されないToDo
 - ToDo実施状況のチェックやつきあがが面倒で、結果として実行されない
- 会議ばかりで進まないプロジェクト
 - 会議はたくさんしているが、プロジェクトとしては何も生み出さない
- 高すぎる会議運営コストとスキル
 - 会議の設定、アジェンダ設定、確認事項の設定、議事録の作成、議事録の配布、リマインドメール等、会議の事前事後の作業が多すぎる。会議主催者ほど忙しいのに、
■ 議事進行(ファシリテーター)、書記のスキルがばらばら。

2

われわれのアプローチ

プラクティスとしてのeXtremeMeeting (XM)



3

XM(eXtreme Meeting)とは何か?

- XMとは何か
 - 会議とプロジェクトを生産的にするための実践的なプラクティス集
- XMのマスタープラクティスは2つの**議事録ドリブン**
 - 会議の議事録ドリブン
 - プロジェクトの議事録ドリブン

4

議事録公開の意義

- 内部プロセスが公開されるため、安心感が向上する
- 問題や疑問点が発生したときに、世界中の人の知恵を利用できる
- 間違った判断がないか、誰でもチェック・アドバイスすることができる。

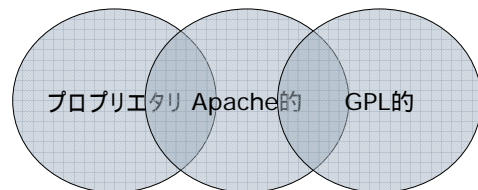
↓

会社の生産性が向上するはずだが。。

5

会議の公開範囲の伝播性と取引ネットワーク生態系の形成

- 他社の情報は一般に公開できないため、その情報が含まれた自社の会議も公開できない。プロプライエタリ
- 自社の会議を公開するため、会議が公開された会社としか取引できない。GPL的
- 会議が公開された会社のみ関わる会議を公開する。Apache的



6

オープンプロセス

- オープンソース
- オープンデータ
- オープンプロセス
 - 生産プロセスが可視化し、外部に公開し、そのプロセスを外部と共有すること